

大会報告書



2022年 8月6日(土) ▶ 7日(日)
『森林保護』



目次

大会実行委員長より	・・・・・・・・・・・・・・・・	2
大会セッションリーダーより	・・・・・・・・・・・・・・・・	3
大会概要	・・・・・・・・・・・・・・・・	5
受賞者一覧	・・・・・・・・・・・・・・・・	6
各議場講評・受賞者コメント	・・・・・・・・・・・・・・・・	8
参加者アンケート集計結果	・・・・・・・・・・・・・・・・	20
大会事務局長より	・・・・・・・・・・・・・・・・	25
参加校一覧	・・・・・・・・・・・・・・・・	27
大会実行委員一覧	・・・・・・・・・・・・・・・・	28
大会役員一覧	・・・・・・・・・・・・・・・・	29
主催・後援・助成・協賛企業一覧	・・・・・・・・・・・・・・・・	30
次年度大会の案内	・・・・・・・・・・・・・・・・	30

大会実行委員長より

大会実行委員長 / 運営受付セクションリーダー 浅野高等学校2年 和田 大輝

皆様、この度は第6回全国高校教育模擬国連大会（AJEMUN）に参加していただき、誠にありがとうございました。

本年度のAJEMUNは対面形式とオンライン形式の両形式で大会を開催するハイブリット型の大会となりました。いままでに前例のない形式ではあったものの、無事終えられたことをとてもうれしく思います。そして大規模な大会を滞りなく開催し、成功を収めることが出来たのは、運営活動を支えてくださった大会役員の皆様、スポンサーの皆様、そして実行委員の皆さんのおかげです。本当にありがとうございました。

さて、本大会の基調講演では国際熱帯木材機関（ITT0）の事務局長であるシャーム・サックルさんからお言葉をいただきました。その中で、「気候変動の緩和と適応に効果的に取り組む方法を見つけるために、私たちは人類として、また国際社会として、あらゆる手段を講じることが求められているのです」とおっしゃっていました。

私は、これは気候変動問題のみならず、この世界に山積する数々の問題を解決するために必要なことだと思います。そして、模擬国連活動というのはそれらの問題について知り、一人の人間として行動をするようになるためのきっかけになると考えています。

また、これからの世界を担う高校生がそれらの問題の解決策を、現実的でなくても導き出そうとすることは、「私たちはよりよい世界を作っていきたいんだ」ということの意味表示になると思います。世界をよりよいものにしたいということを示し、問題解決のきっかけになることが模擬国連の意義だと私は考えます。

模擬国連の存在意義がこれまで以上に大きくなっているからこそ、「模擬国連の普及」を目標の一つに掲げているAJEMUNの存在意義も非常に大きくなっていると思います。

最後になりますが、より多くの方が模擬国連活動に参加していただくこと、次年度以降の大会がよりよいものになること、そしてこの世界がよりよいものになることを祈り、大会実行委員長としての挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

大会セクションリーダーより

フロントセクションリーダー 海城高等学校2年 梶田 啓太郎

皆様、お久しぶりです。

今大会にてフロントセクションリーダー、そしてA議場の議長を務めました、海城高校2年 梶田啓太郎です。

まず、第6回全国高校教育模擬国連大会（AJEMUN）にご参加頂きありがとうございます。開会式・閉会式両方で話させて頂きましたが、壇上から見た景色は壮観で、これだけ大勢の方々が模擬国連に参加していると思うと、まるで自分事のように嬉しく、また高揚したことを覚えています。この大会の一部として参加させて頂けたこと、そしてそれ以上に運営の重役を担わせて頂いたことは非常に貴重な経験でした。このような機会を頂いたことに改めて感謝申し上げます。

そして、受賞された大使の皆様方、おめでとうございました。益々のご活躍をお祈り申し上げます。

さて、大会後であり少々突飛な質問となりますが、皆様はなぜ模擬国連に参加するのでしょうか？この活動を客観的に見れば、リサーチという事前作業を自らに課し、休日を2日潰し、英語で文書を書いて、その上スピーチもしなくてはなりません。況して受賞を目指すのであれば、意思疎通にもリーダーシップにも優れていること且つ、事前準備も人一倍することが求められます。一般の人からしたら悠々自適に休日を過ごす方が良いでしょうし、きっと中1から5年間も続けている私は彼らにとっての「変人」です。ただ私は、模擬国連に参加したことのある人にしか分からない言葉で形容しがたい魅力がそこにはある、と信じています。そしてその魅力に取り憑かれたからこそ、5年間も続けることができたのだとも感じます。参加する理由が「楽しい」「友達ができる」「国際問題に触れてみたい」このような些細な事で構いません。もし今大会をきっかけに、次の会議にも出てみよう、と思う方が1人でも多くいて下さったのであれば、これほど運営冥利に尽きることはありません。是非続けてみて頂ければ幸いです。

最後となりましたが、今大会開催のためにご協力頂きました全ての関係者の方々に、重ねて御礼申し上げます。

では、皆様と再び別の議場でお会いできることを楽しみにしております。

ご清覧頂き、ありがとうございました。

広報セクションリーダー 玉川学園高等部3年 古賀 麻里子

皆さんこんにちは。第6回全国高校教育模擬国連大会（AJEMUN）の広報セクションリーダーを務めさせていただきました、玉川学園高等部3年の古賀麻里子です。この度は本大会に参加していただき本当にありがとうございました。そして各校顧問の先生方、後援・協賛企業の方々、役員の先生やOBOGの方々、本当に様々なアドバイスやご教授いただきありがとうございます。そして、今大会に参加してくださった全国からの大使の皆さまに心から感謝申し上げたいと思います。二日間、とても有意義な会議になったと思います。皆様楽しんでいただけましたでしょうか？

広報セクションでは、HPの開設及び更新やSNS等での情報発信を行ってきました。そして広報セクションメンバーの積極的なサポートや様々な提案によって円滑に準備を進めることが出来ました。さらに今大会では昨年度の接続練習会に加えフロントセクションと連携し、初の試みとして初心者説明会及びメンター制度を実施しました。たくさんの方々が参加していただき、本当にありがとうございました。皆さまのおかげで会議当日のトラブル等は最小限に抑えることができました。これは参加者の皆さまの協力なしでは成し遂げることができなかったと思います。

私は今大会をもって高校での模擬国連活動を終えます。このような素晴らしい大会に広報セクションリーダーとして携わることができて本当に嬉しく思います。模擬国連は社会課題などを議論することができる数少ない機会だと思います。その中には皆様にとって馴染みのないものもたくさんあると思います。今後たくさんの議題と触れ合っていく中で自分の視点を大使の皆様には養っていただきたいと思います。それは将来皆さまの人生において何か大切なものとなると思っています。ぜひ今大会で成功したことや失敗してきたことを糧に今後模擬国連に参加していただきたいと思います。本当にみなさんありがとうございました。

第6回大会概要

大会名 : 第6回全国高校教育模擬国連大会 (AJEMUN)
開催日時 : 2022年8月6日 (土) ・ 7日 (日)
開催場所 : 国立オリンピック記念青少年総合センター
開催方法 : 対面での会議/オンラインでの会議 (ZOOMを使用)
議場方式 : ハーバード形式 (全日本高校模擬国連大会と同じ方式)
議題 : 森林保護
使用言語 : 日本語
参加費 : 3000円/人 (対面) 1000円/人 (オンライン)
主催 : 全国中高教育模擬国連研究会 (全模研)

【大会スケジュール】

1日目：8月6日（土）		2日目：8月7日（日）	
10:00	開会式	9:45	会議再開
11:00	会議開始	12:00頃	昼食
12:00頃	昼食	13:20	DR提出
15:15	WP提出	15:10	会議終了
16:30	会議終了・諸連絡	15:30	閉会式

*開会式にて、ITT0事務局長のシャーム・サックルさんのからいただいた挨拶動画を放映しました。



シャーム・サックル
ITT0事務局長

写真撮影：国際持続可能な開発研究所 (IISD) Earth Negotiations Bulletin (ENB)

サックル事務局長は2021年12月開催の第57回国際熱帯木材理事会 (ITTC) にてITT0事務局長に任命され、2022年2月1日に就任しました。マレーシア出身のサックル事務局長は、2007年から2017年までマレーシア木材審議会 (Malaysian Timber Council) のヨーロッパ地域部長、2017年から2022年1月までITT0事務局次長を歴任しています。国際貿易のスペシャリストで、国際交渉、法的分析・政策分析、コミュニケーション術やアウトリーチにおいて卓越した技能と経験を有しています。ロンドン大学キングスカレッジ (Kings College) にて法律学修士号を取得し、1993年にイギリスで認定を受けています。サックル氏はITT0初の女性事務局長です。

*ITT0のHP (https://www.itto.int/ja/about_itto/staff/) より

受賞者一覧

受賞者一覧（一般議場）

【A議場】

最優秀賞

United States of America 渋谷教育学園幕張高等学校 表 真由・山内 琴絵

優秀賞

Papua New Guinea 海城中学高等学校 後河内 琢磨
Indonesia 渋谷教育学園幕張高等学校 安田 修梧・川島 梨聖
India 大妻高等学校 金子 瑞紀
Germany 渋谷教育学園幕張高等学校 笹尾 佳音・山下 実穂

実行委員特別賞

Canada 大妻高等学校 百瀬 晴子・江原 結月

【B議場】

最優秀賞

Australia 渋谷教育学園渋谷高等学校 多胡 七香・谷田 そよ

優秀賞

Brazil 海城中学高等学校 尾関 裕宜
South Africa 渋谷教育学園幕張高等学校 吉成 砂紀・五木田 みなみ
China 松本秀峰中等教育学校 村木 裕太・三代澤 咲

実行委員特別賞

Indonesia 西大和学園高等学校 八ッ橋 幸汰・藤井 優智

【C議場】

最優秀賞

Australia 灘高等学校 池田 高啓・福永 健斗

優秀賞

Republic of Korea 桜蔭高等学校 北代 真央・薩摩 柚月

実行委員特別賞

New Zealand 小林聖心女子学院高等学校 三好 英絵・児島 舞香

受賞者一覧（初心者議場）

【D議場】

最優秀初心者賞

Australia	岐阜県立岐阜高等学校	宇留野 理名・杉山 優花
-----------	------------	--------------

優秀初心者賞

Malaysia	渋谷教育学園渋谷高等学校	川西 天・杉本 奏
Thailand	三田国際学園高等学校	阿部 穂華・畠中 琳菜
Austria	開智中学・高等学校	井上 結里加・根木島 魁
Russian Federation	山形県立米沢興譲館高等学校	石井 倖之介・寒河江 美言

実行委員特別賞

Philippines	八千代松陰高等学校	石崎 愛実・本間 柚衣
-------------	-----------	-------------

【E議場】

最優秀初心者賞

Kenya	東京都市大学等々力高等学校	朝場 優作・谷 侑真
-------	---------------	------------

優秀初心者賞

Venezuela	立教女学院中学校・高等学校	石川 結子・大澤 茜
Netherlands	成蹊高等学校	縄田 深永・清水 紗々加
Peru	岐阜県立岐阜高等学校	市川 竜太郎・織田 真顕

実行委員特別賞

Laos	東京農業大学第三高等学校	政輝 輝子
------	--------------	-------

【F議場】

最優秀初心者賞

Ghana	国際基督教大学高等学校	小山 奈々・山岸 乃衣
-------	-------------	-------------

優秀初心者賞

Russian Federation	富士見丘高等学校	豊田 千茜・モハメッド カディジャ
Sweden	茨城県立竹園高等学校	染谷 龍佑・堀 ゆず葉
South Africa	小林聖心女子学院高等学校	児島 百花・近藤 はるか

実行委員特別賞

Spain	富士見丘高等学校	深瀬 青桜・望月 かれん
-------	----------	--------------

各議場講評・受賞者コメント

A議場

【フロントより】

皆様、お久しぶりです。A議場は経験者/対面議場であり、全国から集った経験ある大使による会議は非常に見応えあるものとなりました。では、ここでフロントから講評を述べたいと思います。

〈議長〉

大使の皆様、会議2日間お疲れ様でした。フロントセクションリーダー兼議長を務めました、海城高校2年榎田啓太郎です。

今回のA議場では、初日に3グループにまとまり、そのまま3つのWPが提出されました。その後2日目、大使の皆様の活躍によって1つのグループになり、DRも提出され、遂にはコンセンサス1歩手前まで行きましたが、DRを認められないスポンサー国が存在したことから、非受理という形で会議は幕を閉じました。

結果は残念でしたが、最初は大人しかった議場が、段々と熱の入った活気ある良い議場へと皆様の努力と意欲により変化したと感じました。

また、受賞されました大使の皆様、おめでとうございます。益々のご活躍をお祈り申し上げます。

私は前回大会に大使として出場したことから、今回は運営として大使の皆様に満足できる会議の場を提供できたら、恩返しできたら、と一心に取り組んで参りました。それが叶っていましたら幸いです。

最後となりましたが、今大会開催のためにご協力頂きました全ての関係者の方々に、この場をお借りして御礼申し上げます。

では、また別の議場でお会いしましょう。本当にありがとうございました。

〈副議長〉

大使の皆さん、二日間の会議お疲れ様でした。副議長を務めました、横浜国際高校2年牧井栞です。私は今回の大会が初めてのフロントでの参加でプレッシャーのある会議でしたが、皆さんの協力のおかげでスムーズに会議を終えることができました。

今回の会議ではメモ回しが活発であり、各大使が自分の国にとって良い決議案を作ろうとしている姿勢がよく見受けられました。また、外交もうまく二人組を利用し、スタートダッシュは多少遅くなってしまったが効率の良い行動が取れていると思いました。DRは非受理になりましたが、皆さんの大使としての行動が一つの決議案を作り上げていく姿はとても見応えがありました。フロントとしての参加でしたが今回の会議から学べることは私もたくさんあり、とても有意義な会議に参加することができました。本当にありがとうございました。

〈会議監督〉

大使の皆様、会議2日間お疲れ様でした。会議監督を務めました、岐阜高校2年黒川睦です。

まず、個人的な話ですが、フロントとして会議に参加するのは今回が初めてで、それが皆様のおかげで有意義なものとなりました。ありがとうございました。

今回の会議では、DR締め切りの2日目13:20に初日に3本だったWPが1本のDRとなって提出されました。13:00ごろから3つのグループ全体でのコンバインが始まり、時間に追われる中で、議場全体での意見統一がなされました。最終的にこのDRは非受理となった訳ですが、皆様のコンセンサスに向けて議場全体を見渡しながらか交渉に務める姿はとても輝いて見えました。

今回の会議で、大使の皆様の姿勢から、フロントとしての視点から、たくさん学べるがありました。改めまして皆様、ありがとうございました。そしてお疲れさまでした。

【最優秀大使コメント】

United States of America大使 渋谷教育学園幕張高等学校 表 真由・山内 琴絵

A議場でアメリカ大使を務めました、渋谷幕張高校2年の表真由と1年の山内琴絵と申します。共に議論を交わし濃い2日間を送った同議場の大使の方々、そして3年ぶりとなる対面形式でのAJEMUN開催のため尽力して下さった大会実行委員の方々、スポンサーの皆様、先生方に心より感謝申し上げます。

では山内から今会議の感想を、表から模擬国連の魅力について書きます。

今会議は通常に比べて時間に制約があり普段以上にタイムマネジメントが重要な会議でした。このことを念頭に置きつつも議論の質を下げないように自国益に沿った主張をしていた大使が多く、内政を回しながらもレベルの高さをひしひしと感じました。だからこそ各国の意見や政策を反映した成果文書を国際社会に残せなかったことに後悔が残ります。ですが、議論の過程で大使の方々が時間をかけて練り上げてきた政策や知識と触れることができたことは私（山内）にとっても非常にかけがえのない経験となりました。実は私は自分の会議行動の結果に気持ちが左右され過ぎたり、会議前過度に不安になってしまったりすることがよくあります。なので今年に入ってから「うまく動く」ことよりも気負わずに模擬国連を楽しむことをモットーにしています。そして今会議は私の模擬国連人生で一番楽しい会議となりました。是非皆さん今後も模擬国連を楽しんで、模擬国連活動を盛り上げていきましょう！

この機会に模擬国連の意義について私（表）の考えを示したいと思います。模擬国連という活動では、様々な分野における知識を得、理解を深めることで自分自身の意見を持つための土台を構築することができます。また、様々な国と交渉することによって相手の意見を尊重しながら自分の意見も主張するようなアサーティブコミュニケーション能力も身に付きます。加えて公式会議や練習会議を通して様々な意見を持っている先輩、同輩、後輩と交流することができ、多角的な視点を持つことも可能です。

模擬国連は、ほかの文化部に比べて知名度は低くマニアックな活動ですが、取り組みれば確実に人として成長し、実社会で活かせるような力を身に付けられます。模擬国連の部活が学校にない方、練習会議に参加する機会があまりない方やAJEMUNが初めての会議の人も多いと思いますが、皆さんが模擬国連の魅力に気付き続けて頂けると嬉しく思います。

最後になりますが、改めて二日間ありがとうございました。またお会いできるのを楽しみにしています！



A議場の皆さん

B議場

【フロントより】

B議場では初日から活発な議論が展開されていた。モデレーテッドコーカスは採られず最初からアンモデレーテッドコーカスに移った。まず先進国グループと途上国グループに分かれ、途上国グループが森林保護に積極的か消極的かでさらに細分化され、先進国グループと途上国グループの一部によるグループも加わり、計4グループが形成された。初日はこの4グループがそれぞれWPを出した。二日目には初日の議論を踏まえ、コンバイン交渉が行われた。結果的に先進国グループから一つと途上国グループから一つ、DRが提出されたが途上国グループのDRは体裁のミスにより非受理に、先進国グループのDRはスポンサー国の棄権により採択されなかった。

主な議論の内容としては議題である森林保護に対してパーム油の議論や森林火災といった多方面から森林伐採の問題点を指摘しており、多角的な議論が行われていた。しかし二日間を通して論点からはみ出て個別の問題点のみを議論してしまっている瞬間も何度か見受けられたので今回の論点ではどこまでを話し合うかということ判断するのがかなり難しかったように思える。この点に関しては定期的にフロントから注意を促すことで提出されたDRでは改善が見られたが、このアウトオブアジェンダの内容を事前にBGで詳しく説明していなかったのはフロントの責任である。

このB議場が他の議場と違った点としては、ひとえに議論の活発さと言えるだろう。初日からフロントの予想を遥かに超えるメモ回しが行われ、各国間で次にどのような会議行動を取るのかが明確に共有されていたように感じられた。またメモ回しの活発さと同時に各グループ内での大使の発言も活発に行われており、まさに ”No one left behind” であった。これはリーダー国の采配もあるし、各大使の意識の高さが反映された結果である。そして外交の動きも積極的であった。議場内を縦横無尽に動き回り各グループの進行状況を逐一報告し合っていたため先進国グループではコンバインも成功した。しかしながら途上国グループでは各グループ間での進行速度に大きな差がありコンバインに時間がかかってしまったためDRの提出も満足がいく結果とはならなかった。途上国グループはもう少し時間に余裕を持ってコンバインが進められると良かったと思う。

最後に私が今回B議場のフロントを務めるにあたって、対面会議でのフロントの経験が無く不安なことがとても多かった。しかし副議長や会議監督、大学生の方、顧問の先生に支えられて無事会議を終えることができてとても安心している。対面議場でしか味わえない白熱した議論が続いている時の臨場感や積極的な外交の動きなどを目の当たりにすることができたことは私も含めて議場全体の参加者にとって次の会議に向けた大きな経験になると思う。対面会議での開催にご尽力くださった実行委員や事務局の方など全ての方にこの場を借りて御礼申し上げます。

【最優秀大使コメント】

Australia大使 渋谷教育学園渋谷高等学校 多胡 七香・谷田 そよ

こんにちは。B議場で最優秀賞を受賞させていただきました、オーストラリア大使の谷田そよと多胡七香です。まず初めに、コロナ禍によりオンライン会議が多い中、ハイブリッドという新しい形で対面会議を主催していただいた運営の方々、先生方、本当にありがとうございました。私たちにとって、全国規模の対面会議は初めてで不安を抱えながらの参加でした。しかし、対面会議初心者だからこそ、さまざまなことに挑戦し、失敗できると考えたことで、思い切った会議行動をとることができました。また、私たちだけではなく、議場にいた大使の皆様の多くも、このように大規模な対面会議の経験は少なかったことでしょう。今回のAJEMUNIは、多くの方々にとって、対面会議特有のアツさを経験できる場となったのではないかと思います。

私たちが今会議で意識したことは、「本気で問題を解決したい」と思うことです。オーストラリアという、議題に関連した問題をあまり抱えていない国にとって、最大の国益は「世界で同じ方向を見る」ということでした。この国益が国際益と一致したからこそ、会議が終わった後の未来まで見据えて行動することができました。そして、政策を考える際も、「本当に世界が変わるのか」を常に意識していました。

模擬国連はあくまで国連の「模擬」です。しかし、もともと協力することが見込まれる、似た立場の国で固まり、決議案を出すことは模擬国連におけるゴールなのではないでしょうか。私たちの担当国、オーストラリアは日本と同じく「森林保護を推進する先進国」という立場です。そのため、自分たちの中にある「森林は保護すべきものだ」という価値観を乗り越えて、自国の経済を保護するために時に環境保護の観点からして過剰な森林伐採をしなくてはならない立場の発展途上国と分かり合うことは、難しくもありましたが、新鮮で非常に楽しかったです。私たちにとっての模擬国連のゴールは、「安易に妥協しない議論の末に達成される相互理解」です。今までの会議において、このゴールが達成できた、と納得できるような会議行動はできていません。今会議においても、コンセンサスを意識しすぎてグループとしての「色」が見えにくかった、という指摘もいただきました。

私たちは渋渋模擬国連部に所属し、経験豊富な先輩、貴重な機会を設けてくださる先生方、互いに刺激しあえる同期など、模擬国連という活動に熱中できる環境に恵まれて、とても幸せです。また、今会議では全国のような場所から集まった仲間たちと出会い、たくさんの刺激を受けることができました。今後は、この会議で見つかった新たな課題や自分たちの弱点に向き合い、一つずつ乗り越えていきたいです。

最後に、賞や会議経験のあるなし、また今会議当日の会議行動に関わらず、同じB議場で議論して下さったすべての大使の皆様、本当にありがとうございました。また別の会議でお会いできることを楽しみにしています。



B議場の皆さん

C議場

【フロントより】

〈事前準備〉

事前準備といっても各大使のやり方や何を準備するのかさまざまだと思いますがPPP, NPとして提出された物に関しては、多くの大使はしっかりリサーチして出していた大使が多く良かったです。会議戦略、他国分析などさらなる準備ができると会議がより充実したものになるのではないのでしょうか。

〈会議当日〉

今会議ではC議場は唯一のオンライン一般議場として開かれましたが、各大使、オンラインというオフラインとは違った利点や欠点がある中で、大使としてその責務を全うしようとしている感じが感じられてよかったです。結果としてはWPが一本、DRが0本というふうになってしまいましたが、これにはAJEMUNの厳しい時間設定などを考慮すると致し方なかったようにも感じます。最初のモデで各国のスタンスや最終目標を共有し、そのあとのアンモデですぐにグループ分けが進み、先進国、途上国で別れていました。1日目はWPの提出で少し遅れがあったものの、特に問題なくすすめられていたと思います。2日目は先進国グループのリーダー国がコンバインを進めDRでのコンセンサスを提案するという流れを作っていました。その後から、1日目で議論が進んでいなかった論点2の確認とコンバイン作業が進んでいました。結果としては、コンバインがうまく進まず、先進国のDRが提出され、体裁的な問題で非受理となりました。

会議の進行方法について、最終目標であったコンセンサスを目指すのであれば、より議場を見渡した会議行動が必要だったと思います。具体的には1日目で今後のタイムスケジュールや各論点、グループの理念の共有などを行うなどであり、各大使にはより俯瞰的な支店でも会議を進めてほしいと思いました。

他にもオンラインの強みを生かし、画面共有や共有ドキュメント、チャット、挙手機能など工夫次第で会議を効率よく進めることができます。本会議では議論に遅れが見られた途上国グループであまりこのような機能が使われてないように見受けられたので、工夫してほしいです。一方で、会議後半では大使間での議論が活発になり、ブレイクアウトルームを分けるなど、そういった状況が生まれるように会議を進められていた点は良かったです。二日目になり時間が経つにつれ、各大使が話の中心に入れるように行動していた点が良かったと思います。

最後に、普通の高校生であればわざわざ模擬国連をやろうともしないだろうし、知らない場合の方が多いと思いますが、今回のajemunでは、模擬国連を通して、少し新しいことにチャレンジしてみるという勇気や、その場を踏まえた臨機応変さ、1歩離れ議場を俯瞰する巨視的な視野など言語化しづらいが価値あるものを経験として各大使が得られたと思います。

今後の模擬国連でさらにその能力に磨きをかけ、大使として輝いてほしいと願います。

【最優秀大使コメント】

Australia大使 灘高等学校 池田 高啓・福永 健斗

オンラインのC議場にて、オーストラリア大使を務めました、灘高校2年の池田高啓、福永健斗です。

まず初めに、会議を円滑に進めて頂いた議長を始めとするフロントの皆様、当日まで多岐にわたる準備にご尽力頂いた運営の皆さん、先生方、協賛会社の方々、そして共に議論を交わしたC議場のみんな！本当に有難うございました。この度は図らずも素晴らしい賞を頂戴したこと

を光栄に思い、この場を借りて深く感謝申し上げます。
シビアな会議でした。

そもそも会議時間が短い上に、「違法伐採対策」「開発による森林伐採」と、政策の幅が広い論点を見て、会議前から面食らっていました。それだけに、各国の意見を如何に効率的にまとめるか、他グループの議論にも目を光らせた立体的な議事進行が行えるか、実力が問われる会議だったように思います。

1日目は論点1に特化して議論を行い、先進国グループからのWP1本のみが受理されました。2日目は外交班による論点1のコンバイン交渉と並行して、各グループで論点2の議論を進める形を取りました。最終的なコンバインを目指していましたが諦め、各グループからそれぞれ不完全な形でDRを提出したものの、先進国グループのDRは規定の4枚を3行オーバー、途上国グループのDRはスポンサーが1カ国足りず、共にフェイルという結果に終わりました。

反省を述べるとキリがありませんが、共通して大雑把だったという感想を抱きます。議長裁量のモデ内で会議の方向性のある程度共有し、決定することは出来ましたが、それに満足した結果漠然とした目標と時間感覚が空中浮遊し、具体的な時間のアウトラインを設定するまでに至りませんでした。先進国グループに関しては決議案においても書類不備が祟った訳ですので、面倒くさくとも泥臭く緻密な会議行動を行う必要があったと振り返り、今後の糧にしたいと思います。

さて、実力不足の初心者コンビながらも幾つかの会議に出場してきた身として、模擬国連では「議論の強さ」は鍵を握りますし、様々な国の意見を効率的に処理する力、議論の方向性を決めて議場全体を統率する力、具体的にみると様々な能力が要求されているように思います。しかし改めて会議の全体を振り返ったときに、そうした大使としての能力ではなく、人間としての力が、単純に「ええやつ」でいることの方がより重要ではないかと気付かされています。僕たち自身もこれまでの会議では、何とか国益を達成させようと頑固な態度を取ったり、敵対する国に対して不敬な態度を取ったりといったこともありました。確かに具体的な国益を追求することは外交の基盤ですが、他国と友好関係を構築することもまた国益の大きな柱です。その達成には持ってきた政策を押し通すことより、友好的に議論を主導する方が、〇〇国の大使とハイタッチして会議を終える方が貢献する場合もある気がしています。画面越しかもしれませんが。



C議場の皆さん

D議場

【フロントより】

議長を務めさせていただきました、札幌日本大学高等学校3年の後藤恵望と申します。大使として参加して下さった皆様、2日間お疲れ様でした。受賞された大使の皆様おめでとうございます。

今回の会議では、1日目はグルーピングが曖昧な中会議が始まり、WPは3つ提出されました。2日目は全てコンバインし、最終的に1つのDRが提出されましたが、提出時刻に間に合わず体裁が守られていなかったため、残念ながら受理することはできませんでした。

大使の皆様にとって会議を振り返るきっかけとなるよう、フロントからの講評をこの場をお借りして述べさせていただきます。

会議準備の段階で、リサーチを満足にできた大使はそれほど多くなかったのではないのでしょうか。PPPやNPが未提出であった国が散見されました。これらの資料は、担当国の国益を理解する上でとても重要なものです。ぜひ一度見直し、改善点を探してみてください。

会議当日、国益をきちんと理解し、主張している大使も一部見受けられました。また、大使間での信頼関係もある程度築けていたように思います。グループ間を行き来し、議場全体を把握しようとしている大使も一部いらっしゃいました。しかし、会議序盤から積極的に発言できた大使はそれ程多くありませんでした。アンモデでは、一部の国の大使が多く発言したり、グループでまとまったりしているのにも関わらず、個別に質問や交渉等を行っていたように感じました。質問や交渉をグループで共有する形で進められれば、より時間を有効活用できたのではないかと思います。

また、アンモデにおいて、グループに入れず「会議難民」となってしまった方もいらっしゃいました。グループをまとめるリーダー国は、ぜひ会議難民への配慮をしてみてください。しかし、今回会議難民となってしまった方々は、勇気を出してグループの輪に入り、話を聞く等工夫して、国益を守り、会議中有意義で実りに繋がる時間を送ってください。会議全体を通して、担当国、そして所属するグループの利益と立場を常に意識するよう心掛けましょう。

会議前や、1日目と2日目の間での個人準備により時間を割くことをお勧めいたします。例えば、2日目はDR作成や交渉がほとんどであり、政策の議論にあまり時間を割けていませんでした。2日会議のメリットである、1日目の内容を踏まえて対立点等を事前に洗い出してくることを意識し、活かすことができた暁には、より議論に割ける時間が増えるでしょう。また、2日会議の中で残されている時間の把握を常にし、文書提出の時間を意識してみてください。

最後になりますが、大使の皆様には、模擬国連への参加をゴールとせず、国際問題について考えるきっかけとしていただきたいと思います。今回の経験は必ず皆様の糧となるでしょう。

今大会の開催に尽力して下さった顧問の先生方、協賛各社の方々、実行委員、そして大会に参加して下さった皆様に厚くお礼申し上げます。2日間ありがとうございました。

【最優秀初心者大使コメント】

Australia大使 岐阜県立岐阜高等学校 宇留野 理名・杉山 優花

今会議でオーストラリア大使を務めました、宇留野理名、杉山優花です。この会議への参加は私たちにとって初めての公式大会、そのうえ全国規模の大きな大会でした。岐阜を越えて、まったく知らない学校や遠くの地域の高校生と話すという貴重な経験をさせていただきました。コロナ禍の中、対面形式での会議を開催してくださりありがとうございました。

私たちが今回の会議で感じたことは、（当たり前かもしれませんが）模擬国連は自分から積極的に動いていくと、ますます面白くなっていくということです。

模擬国連では、各国大使が自国の国益を守るために動きます。自分の予想していなかった主張をする大使も多くいて、似た立場の国とでさえ意見を合わせるのが難しかったです。そのた

最後になりますが、改めて今大会をサポートしていただいた先生方、大会運営、並びに私たちと関わってくださったすべての大使の皆様、本当にありがとうございました！



15

E議場

【フロントより】

今回のE議場での会議は、初心者議場ながら、正式なプロセスを踏みDRが提出・可決され、形としてはきちんと成立した良い会議だったと思います。ただ、大きな反省点として挙げられるのが大使の「主体性のなさ」です。模擬国連では、与えられた論点に対して「自分の国が問題を解決するんだ」という意思を持って、自分にできることが何かを探し積極的に会議に参加することが、大使の望ましい姿です。しかし、今会議では他の誰かに動かされるのを待っている大使が多く見受けられ、あまり緊張感が感じられない節もありました。

最初のアンモデが始まった時、積極的に動きグループ形成を目論む大使も数名いました。しかしその他の多くは、彼らに先導されるのを待っており、リーダー国に促されるままグループに入りそこで流れに身を任せる、といった行動を取っていました。そのため、その後も会議の舵取りはリーダー国に任せっぱなしで、リーダー国の中には、グループ内での議論を深めるよりも、いかに関心の薄い大使を自分たちに振り向かせるかに力を入れている大使もいました。また、グループに入りきれなかった大使は孤立状態となり、そのような大使が複数出てしまったため、仕方なしに孤立した国同士が形式的にお互いの現状確認をしているようにも見て取れました。このように、会議序盤から主体性の薄さが露呈していました。その後、主体性の薄さが顕著に現れたのがWP提出の段階です。フロントからの注意喚起があったこともあり、リーダー国はスポンサーの国数を満たすことに注力していました。その時にリーダー国以外の国は、どのWPのスポンサーになるのが良いか“ウィンドウショッピング”をしているような状態でした。スポンサー国とは「共同提案国」であり積極的に政策を提示する立場であるため、本来であれば、グループの中でリーダー国と共に政策を練り上げていった国がスポンサー国として名を連ねるはずですが。しかし今回は、WPに賛成できたらスポンサーになるとの認識の大使も多く、リーダー国とその周辺数カ国が政策を提案し、その他の国が「どのWPのスポンサーになろうかな」と見て回っていたのです。そのため約半数の国がスポンサーを兼任するという異例の事態が発生し、それが一因となって、3カ国が3つのWPのスポンサーになってしまうというトラブルが生じてしまいました。WPやDRの政策も、一部の国のみで考えられ深い議論を踏まずに文書に書かれたため、具体性に欠けるものも多く、主体性の薄さが会議全体に影響していたのと思われます。

一方、評価に値する大使が存在したのも事実です。会議を先導したリーダー国はもちろん、スピーチやアンモデの初動で事前準備の入念さを感じさせる国も複数いました。特にスピーチは、用意した原稿を「読む」大使が多い中、「伝える」ことに重きを置き単純明快な内容で話した大使もおり感心せざるを得ませんでした。

今回参加した初心者大使は、まだ十分に知識が蓄えられておらず、それゆえに上手な会議行動が取れなかった人も多かったと思います。今会議は、あまりうまく行動できなかった大使も、今後につながる学びが多く得られた会議だったと思いますので、参加した大使の皆さんの今後の活躍に期待したいと思います。

【最優秀初心者大使コメント】

Kenya大使 東京都市大学等々力高等学校 朝場 優作・谷 侑真

第6回大会でケニア大使を務めさせていただきました東京都市大学等々力高等学校2年の谷と朝場です。

まず初めに、この度の3年ぶりの対面による模擬国連開催に対し、お喜び申し上げます。

また、この度の第6回大会開催に向けて準備をしてくださった全ての実行委員の方に心から感謝申し上げます。

まず、我々が今回の模擬国連で一番大切にしていたことは『相手の意見を受け入れること』です。

お互いの意見を尊重し、良い点を伸ばしあってこそ、誰も想像できないような素晴らしい意見に巡り合うことができます。

今回の模擬国連で我々ケニアは1日目のWPを提出することができませんでした。

そこで、我々は1日目の夜、各チームのWPに目を通し、一日目で各国の大使の方から頂いた意見や、自分達の提案の至らぬ点に目を向けて、今一度自国の利益と国際益のバランスが取れた主張を考え、コンパインに向けたプレゼン資料・図・表を作成しました。

2日目にはその資料を使い、多くの大使の方に声をかけ、プレゼンをし、徐々にスポンサー国を増やすことができました。

大会2日目のスタート当初には1カ国しかスポンサーがいなかったケニアですが、努力が実を結び、DR作成時には過半数以上の国の大使の方に協賛をいただくことができました。

これも、今思い返せば我々の意見に賛同頂いた各国大使の方々のご尽力あつてのことだと感謝しております。

また、これらの経験を通して「主観」と「客観」の大きな差を感じ、客観視することの大切さ、物事を考え直してみることの重要性を学ぶことが出来ました。

それに加え、今回のテーマである『森林保護』という切り口から世界平和について考えるきっかけを持つことができました。

そして何より、ケニアという国が大好きになりました。

模擬国連は、唯一「日本人」という枠組みや先入観を超えて、多様性を受け入れることができる教育活動です。

普段の生活でも世界中にアンテナを張り巡らせ、違う立場になって物事を考える、そうした『メタ認知能力』を持って、多様性を受け入れることが今後のグローバルリーダーに求められる資質なのだと思います。



E議場の皆さん

F議場

【フロントより】

まずは、二日間お疲れさまでした。また、受賞された大使の皆さん、おめでとうございます。今大会でのF議場は、初心者議場かつ、オンライン議場でした。

F議場に参加した大使のほとんどが模擬国連の大会への参加が初めての方であったため、会議の最初に、フロントからWPや会議の流れについての説明の時間を設けました。

次にグルーピングのモデを提案し、グルーピングについて話してもらいましたが、20分では大使の中ではうまくまとまらなかったため、フロントからモデで各国大使から出された意見をまとめ『こういうグルーピングで、この後の話し合い次第では分かれてもいいので、とりあえずは始めましょう』という形でまとめめさせていただきました。

グループは最初、2つでき、その後、1つは2つに分かれ、もう一方は3つにわかれ、合計5つのグループができました。

WPについては、5グループ分かれたのですが、提出に慣れていなかった、書きなれていなかったため提出されたのは2本で、1本は提出時間内の提出で受理、もう1本は提出時間に遅れての提出であったため、不受理となりました。

1日目には外交会議は行われず、グループ間の情報の共有は見られませんでした。

2日目は、1日目にWPの提出の際、文言の動詞や書き方がわからないという大使がいたため、最初にDRの書き方を説明し、1日目に提出できなかった、不受理となってしまったWPの内容の共有を大使間で行うように呼びかけ、さらに、コンセンサスができるよう全体で共有して2日目の予定を立てるように言ったところ、2日目最初のアンモデで率先して、予定を立て、提出できなかった、不受理となってしまったWPの内容の共有を行う大使が現れ、スムーズな議論が行われるようになりました。

次回からの会議では上記のことに加え、『外交』『内政』でペア間で役割分担をすると、よりスムーズな議論が行えると思います。

昼休憩前には完全に1つのグループにまとめ、最終的には時間内のDRの提出が行われました。

残念ながら、コンセンサスには至らず、ロールコールでの投票になり、採択となりました。

1本のDRにまとまったものの、Noと投票した大使がいたということは、議場全体での各国の大使の意見共有ができていなかったということです。確かに、時間が短く、オンライン会議では全大使での意見共有は難しいですが、どうやったら全大使がYesと言えるDRを提出することができたのか考えてほしいです。

しかし、今回で皆さんが1日目の最初と比べ大幅に成長したのはフロントとして大いに感じましたし、皆さん自身も感じたと思います。今大会でうまくいった、いかなかった大使、両者いらっしゃると思いますが、今一度、今大会の反省をしてみてください。

模擬国連は、会議後に反省し次の会議での実践で反省点を活かすことで成長することができます。

そのため、模擬国連に参加する機会があったら、今大会の経験を活かし積極的に参加してもらおうと嬉しいです。

最後にこの場を借りて、協賛各社の方々、先生方、実行委員のみんな、そして参加して下さった大使の皆様に感謝を申し上げます。

2日間お疲れさまでした。

【最優秀初心者大使コメント】

Ghana大使 国際基督教大学高等学校 小山 奈々・山岸 乃衣

第6回AJEMUNのF議場でガーナ大使を務め、最優秀初心者賞をいただきました、国際基督教大学高等学校1年の小山奈々と2年の山岸乃衣です。まず初めに、AJEMUNの運営に携わってくださった大会実行委員の方々、スポンサーの方々、そして2日間共に大使として会議をして下さっ

私たちは二人とも帰国生で、海外のインターナショナルスクールに在籍していた経験があります。在外の学校で培ったディベートの力を模擬国連の場でも発揮し、多角的な視点から世界問題を見ることの楽しさや重要性を伝えていきたいと望み、今回の大会に参加することを決めました。第6回AJEMUNが私たちの初めての大会ということで、当日までは不安や心配にかられる日々でしたが、互いに助け合い、議題に関する知識を深めながら当日を迎えることができました。大会中の2日間は私達にとって忘れられない経験となり、大使の皆様一人一人が国を代表していることを誇りに思い、また世界に自分たちがどう貢献できるか考え、互いの主張を尊重しながらより良いものへと向かうことができました。

[illegible]

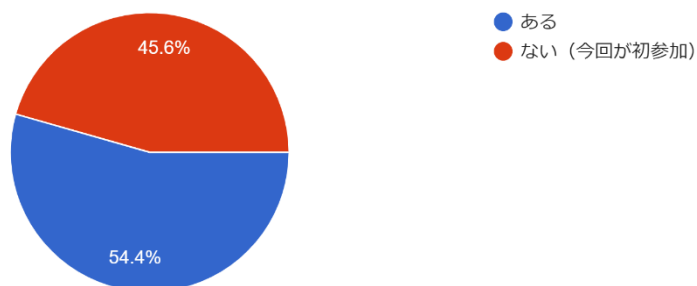
19

参加者アンケート集計結果

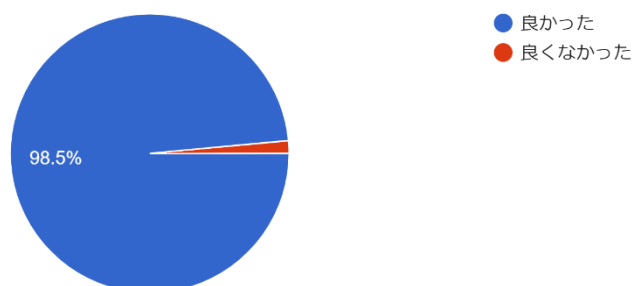
データ編

【オフライン参加者回答】

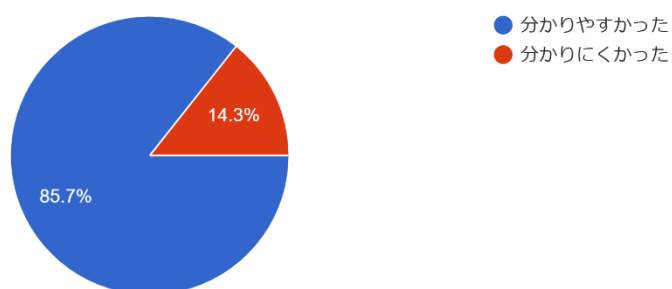
Q1 あなたはこれまでに模擬国連に参加したことがありますか？



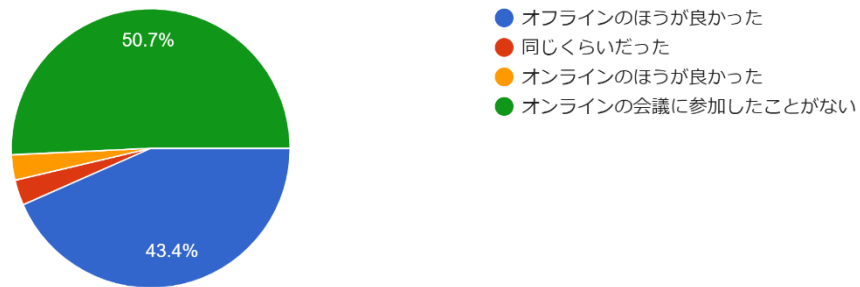
Q2 今大会に参加してよかったですか？



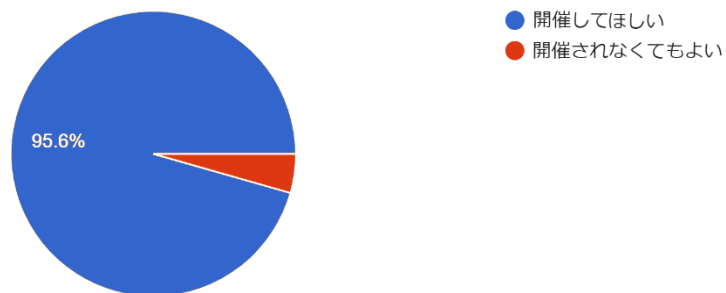
Q3 大会資料 (BG・会議細則・HPの情報など) は分かりやすかったですか？



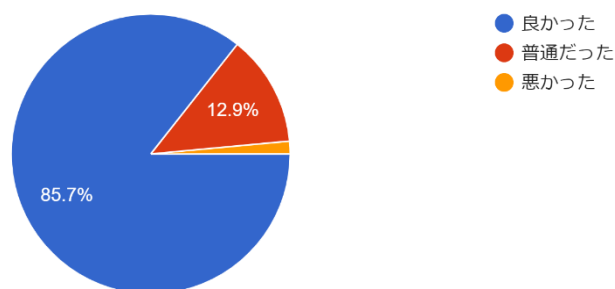
Q4 今大会ではAJEMUNは2大会ぶりにオフラインで実施されましたが、オンラインで行う会議と比べてどうでしたか？



Q5 今後もAJEMUNがオフラインで開催されてもらいたいですか

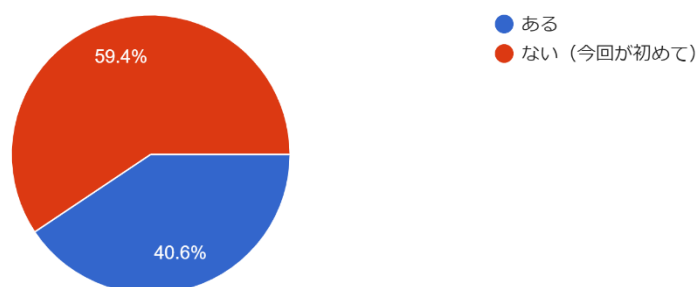


Q6 今大会の運営は高校生が実行委員となっていて行われていますが、実行委員の運営はどうでしたか？



【オンライン参加者回答】

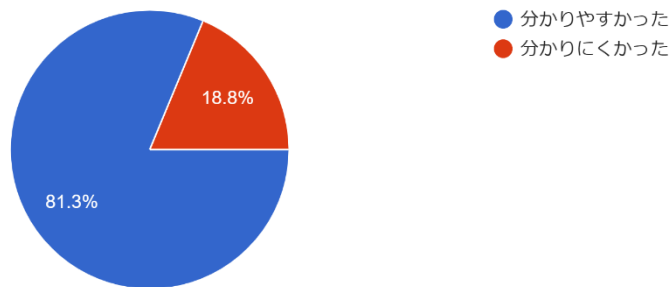
Q1 あなたはこれまでに模擬国連に参加したことがありますか？



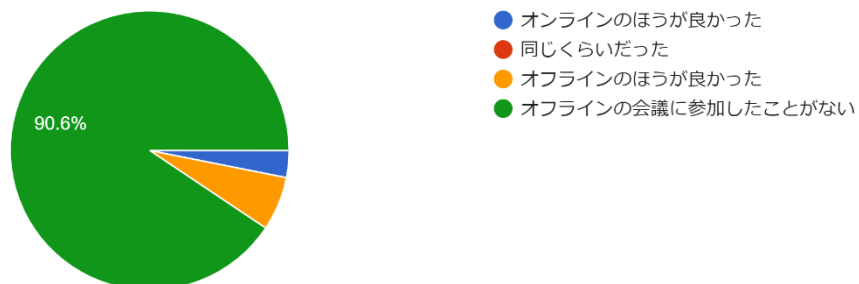
Q2 今大会に参加してよかったですか？



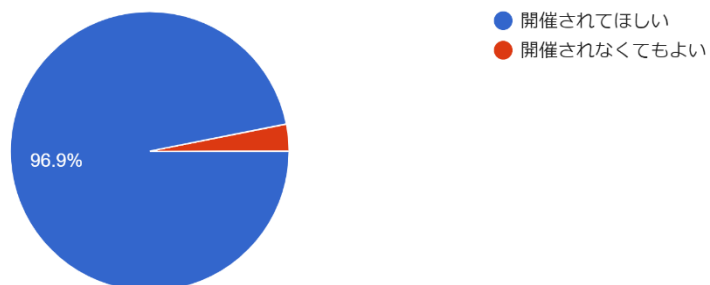
Q3 大会資料（BG・会議細則・HPの情報など）は分かりやすかったですか？



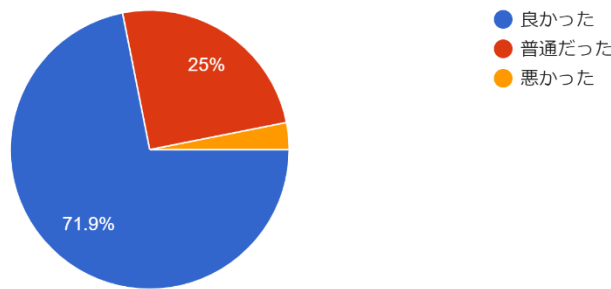
Q4 今大会もAJEMUNはオンラインで実施されましたが、オフラインで行う会議と比べてどうでしたか？



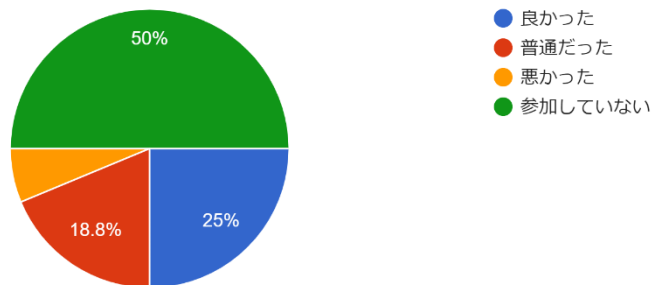
Q5 今後もAJEMUNがオンラインで開催されてもらいたいですか？



Q6 今大会の運営は高校生が実行委員となって行われていますが、実行委員の運営はどうでしたか？



Q7 交流会はどうでしたか？



アンケートに寄せられた意見（一部抜粋） 編

【オフライン開催について】

- ・オンライン大会よりも活発に活動できて楽しかったです。
- ・これまではオンラインの模擬国連にしか参加したことがなかったので、初めて対面で行い、大使同士のコミュニケーションが取りやすく充実していたと思う。しかし、オンラインの時よりも文書の共有が難しく、そこが課題だと思う。
- ・今回初めて対面模擬国連に参加して、外交の難しさと重要さを痛感しました。
- ・普段の練習大会とは違い、全国から集まった大使と議論をすることができ、考え方や議論の進行に新鮮さを感じることができました。
- ・それぞれの国の熱量を肌で感じられて良い経験になりました。
- ・グループで話しやすい会場を用意して欲しい。

【今大会の感想など】

- ・他の高校生が、自分の国について詳しく調べていて、自信を持って発言していて刺激的でした。
- ・オンラインと違い、対面で話せるということで議論もより円滑に、そして熱く話し合うことが出来ました。今後模擬国連の活動がもっと広がり、地方でも開催されるようになればいいなと思います。今回の大会に参加して、大学生になったら模擬国連を広める活動をしていきます！
- ・いろんな人と話せて良かったです。最初は何をすべきか分からず不安でしたが、徐々に楽しくなってきた、また参加したいと思いました。このような機会を設けていただき、また運営の準備などありがとうございました。
- ・初めての模擬国連で、全くわからない状況の中、参加だけしてだまってみようと思い会場に来ましたが、やっていくうちに発言がしたくなり、自分の意見を言うことは楽しいことだなと実感しました。聞く用意ができていない人と、話す用意ができていない人が集まるのは、模擬国

連だけだなと思い貴重な体験でした。

- ・今までにない展開に直面したことが最も印象に残っている。また、そこで終わるのではなく、反省点を洗い出す姿勢が素晴らしいと感じた。

- ・改善点としては、様々な人が一斉に話しすぎてしまっているがために、状況把握が難しかった。もっと主に流れを進める人を決めて進めても良かったのかと思っています。そうでないと、流れについていけなくなると同時に理解が不十分となる為、そこら辺をもう少し全体で意識する必要がありますのかと思います

- ・自分のDRのスポンサーを増やしたいがために、他の国の入れたい政策を入れただけ入れるのには納得が行かなかったです。それを反対したかったが、スポンサー数を減らしてしまうと思うと、言い出しにくかった。

- ・今回が初めての参加だったのですが、全国の高校生の方々と“大使”という形でお会いし、森林保護という共通の課題について白熱した議論を行うことができ、率直にとっても楽しかったです。運営に尽力してくださった皆様、本当にありがとうございました。

- ・準備や下調べがとても重要なことが分かった。もっと積極的に動いても良かったなと少し後悔があるのでもしまた機会があれば、主体的に動いてみたい。でも凄く勉強になったので、参加して良かった。

- ・大使として物事を見ることにより、深い学びを得られた。また視野が広がった。初めての参加ではあったが非常に良い経験となった。

- ・もともと生き物がとても好きで環境保護に興味があったので今回こういう会議に参加出来て将来についてもとても考えが深まりました。色々な人と関わってとても楽しかったです。上手くいかないときも、色々学べるものがあり、とても面白かったです。

- ・最初に用語の解説や何をゴールとしているのかを教えて欲しかった。

大会事務局より

模擬コッカーとしての矜持

第6回全国高校教育模擬国連大会（AJEMUN）大会事務局長
公文国際学園中等部・高等部 米山 宏

みなさん、この度は第6回全国高校教育模擬国連大会（AJEMUN）に参加いただき誠にありがとうございました。主催者として開催自体にこれほど慎重になったのは初めてでした。ご承知の通り、今大会は当初より対面会議とオンライン会議を並立させるハイブリット会議と予定しておりました。ところが大会開催日が新型コロナウイルスによる感染者が急増している時期と重なりそうな関係で、対面会議を実施するかもしくは全面オンラインに切り替えるかギリギリの判断を迫られました。大会役員の先生方で慎重な審議を重ね、結果は皆さんの知るところになったと思います。

不安だらけの大会でした。感染対策についての不安はもちろんのこと、何しろ3年ぶりの対面会議ですから、そもそも対面が初めての大使も多く存在し、会議自体が成立するのかわという不安もありました。結果的にはどの議場でも例年通りのパフォーマンスは見られたとは思いますが、ルールの認識不足により議場の混乱を招いた場面も多々見受けられたようです。それでも多くの先生方から対面会議実施について感謝の言葉をいただき、さらには多くの大使の充実感を肌で感じて、結果オーライなのではないかと自分を納得させているところです。ただ、受賞についての混乱は本来あってはならないことで、関係校の皆さまに大変なご迷惑をおかけしたことは慚愧に堪えません。この場をお借りしてお詫び申し上げます。

さて、今回の議題は「森林保護」でしたが、いかがだったでしょうか。今回は日本に存在する国連付属機関では唯一本部のある国際熱帯木材機関ITTOの事務局長シャーム・サックルさんのお話を伺いました。サックルさんの話を聞くと、ITTOは熱帯林を保護するだけではなく、持続可能な形でそれを資源として活用することを目的としているとおっしゃっていました。まさに目から鱗とはこのことで、熱帯林の過剰伐採によって地球環境に悪影響を与えているというステレオタイプの言説のみ受け入れていた私たちの、単純に熱帯林は保護すべしという思い込みに刺激を与えてくれたものでした。だからこそ、我々は模擬国連のような場で学ばなければならないし、語り合わなければならないと再認識させられた次第です。

今大会以降、対面会議は徐々に復活してゆくでしょう。模擬国連の灯を消してはなりません。それは私が閉会式の講評で述べた通り、模擬国連活動とは国連の存在意義そのものだと考えるからです。オンラインの良さを認めつつ、本来の姿である対面会議を重ねることによって、模擬国連活動の意義を一層高め、より多くの国際平和を希求する若者を輩出することが我々教育者の使命だと感じているからです。

今年、国際社会は新たな局面を迎えたようです。新冷戦の時代とも言われています。ロシアがウクライナに侵攻して以来、核の脅威まで叫ばれ始めました。誰も望まないはずの核戦争についてなぜ憂慮しなくてはならないのでしょうか。使用する予定のない、使用してはならない核兵器がなぜこの世にこんなに多数存在しているのでしょうか。一体誰がこの問題を解決してくれるのでしょうか。残念ながら今（2022年8月現在）ニューヨークの国連本部に集まっている大人たちでは無理のようです。だとしたら、もう分かりますよね。その大人たちが変わってこの問題を解決できるのはAJEMUNに参加した若いみなさんだと思います。「楽

しかった、友だちができた、勉強になった」で終わってほしくありません。模擬コッカードとしての矜持を持ってください。プライドを持ってください。自信を持ってください。ぜひ国連の存在意義をみなさんが具現化してください。模擬国連をやっているみなさんならそれができるはずだからです。

最後にこの場をお借りして、大会にご協力いただいたすべてのみなさま、協賛・後援・助成いただいた企業・団体みなさま方に厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。これをもって今年の私の大会事務局長としての挨拶に代えさせていただきます。

参加校一覧

浅野高等学校	聖ウルスラ学院英智高等学校
伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校	清教学園高等学校
茨城県立竹園高等学校	成蹊高等学校
江戸川学園取手高等学校	聖心女子学院高等科
桜蔭高等学校	専修大学松戸高等学校
鷗友学園女子高等学校	玉川学園高等部
大谷高等学校	中央大学杉並高等学校
大妻高等学校	帝京高等学校
大妻中野高等学校	田園調布学園高等部
お茶の水女子大学附属高等学校	東京女学館高等学校
小林聖心女子学院高等学校	東京都市大学等々力高等学校
海城中学高等学校	東京農業大学第一高等学校
開智中学・高等学校	東京農業大学第三高等学校
開智未来高等学校	東大寺学園中学校・高等学校
海陽中等教育学校	徳島文理高等学校
神奈川県立希望ヶ丘高等学校	名古屋高等学校
神奈川県立横浜国際高等学校	灘高等学校
カリタス女子高等学校	新潟県立柏崎高等学校
岐阜県立岐阜高等学校	新潟県立直江津中等教育学校
岐阜県立多治見北高等学校	西大和学園高等学校
公文国際学園高等部	原田学園鹿児島情報高等学校
群馬県立中央中等教育学校	富士見丘高等学校
佼成学園女子中学・高等学校	松本秀峰中等教育学校
国際基督教大学高等学校	三田国際学園高等学校
駒場東邦高等学校	宮城県仙台二華高等学校
済美高等学校	三輪田学園高等学校
酒田南高等学校	八千代松陰高等学校
実践女子学園中学校高等学校	山形県立山形東高等学校
渋谷教育学園渋谷高等学校	山形県立米沢興譲館高等学校
渋谷教育学園幕張高等学校	山手学院中学校・高等学校
自由ヶ丘高等学校	横浜翠陵高等学校
十文字高等学校	立教女学院中学校・高等学校
頌栄女子学院高等学校	立命館高等学校
昭和女子大学附属昭和高等学校	立命館守山高等学校
水城高等学校	

計69校

大会実行委員一覧

【実行委員長】

和田 大輝（浅野高等学校）

【運営受付セクション】

和田 大輝（浅野高等学校）

大島 弥紗（実践女子学園高等学校）

宮山 祥（逗子開成高等学校）

有馬 沙羅（頌栄女子学院高等学校）

志水 里名（実践女子学園高等学校）

山崎 杏理（三輪田学園高等学校）

【フロントセクション】

梶田 啓太郎（海城高等学校）

北原 かれん（大妻中野高等学校）

小山 美樹（富士見高等学校）

塚原 凜太郎（松本秀峰中等教育学校）

堂田 彩加（玉川学園高等部）

牧井 栞（神奈川県立横浜国際高等学校）

室井 愛（聖心女子学院高等科）

黒川 睦（岐阜県立岐阜高等学校）*BG作成班

小松 風雅（江戸川学園取手高等学校）*BG作成班

青木 桜子（玉川学園高等部）

後藤 恵望（札幌日本大学高等学校）

角田 遼一郎（浅野高等学校）

土屋 哲史（海城高等学校）

林 大翔（松本秀峰中等教育学校）

三澤 聖子（聖心女子学院高等科）

山下 玲桜（聖心女子学院高等科）

【広報セクション】

古賀 麻里子（玉川学園高等部）*フロント兼任

打矢 泰誠（茗溪学園高等学校）

宇野 洸大（茗溪学園高等学校）

川口 実紅（田園調布学園高等部）*フロント兼任

高木 理央（富士見高等学校）*フロント兼任

吉澤 蘭（開智未来高等学校）

太字はセクションリーダー

【大学生サポートスタッフ】

糊澤 哲（Yale University）

松村 知樹（東京大学）

持田 隼人（東京大学）

江原 颯希（Grinnell College）

妻鹿 涼介（Carleton College）

後藤 慧（東京大学）

根岸 里穂（慶應義塾大学）

大会役員一覧

【大会事務局長】

米山 宏（公文国際学園中等部・高等部）

【運営受付セクション】

宮坂 武志（浅野中学・高等学校）

内田 美穂（三輪田学園中学・高等学校）

【フロントセクション】

飯島 裕希（お茶の水女子大学附属高等学校）

岡 祐司（渋谷教育学園渋谷中学・高等学校）

齊藤 智晃（渋谷教育学園幕張中学・高等学校）

関 孝平（大妻中学・高等学校）

竹林 和彦（早稲田実業学校）

藤山 由彦（駒場東邦中学校・高等学校）

室崎 摂（渋谷教育学園渋谷中学・高等学校）

【広報セクション】

後藤 芳文（玉川学園高等部）

三浦 佳奈（富士見中学校高等学校）

【事務局スタッフ】

梶谷 菜々美（早稲田大学）

粕谷 健翔（慶應義塾大学）



実行委員と大会役員の皆さん

主催・後援・助成・協賛

【主催】

全国中高教育模擬国連研究会（全模研）

【後援団体】

文部科学省

外務省

東京都教育委員会

日本私立中学高等学校連合会

全国都道府県教育委員会連合会

一般財団法人 東京私立中学高等学校協会

国連広報センター

特定非営利活動法人 国連ウィメン日本協会

公益財団法人 日本国際連合協会

公益財団法人 ユネスコ・アジア文化センター
（順不同）

【協賛企業】

株式会社 第一学習社

実教出版株式会社

株式会社 公文教育研究会 / グローバル・コミュニケーション&テストイング

株式会社 帝国書院

株式会社 山川出版社

（順不同）

【助成】

公益財団法人 公文国際奨学財団

次年度大会のご案内

次年度の第7回全国高校教育模擬国連大会（AJEMUN）についてご案内いたします。
皆さま是非ご参加ください。

開催日時：2023年8月5日（土）、6日（日）

開催場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

※予定は変更になる場合があります。

